

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 890 号 平成 27 年 3 月 3 日

漢字遊び

詩人という人種の、言葉に対する鋭敏な感覚、言葉操る巧みさにはいつも驚かされます。

昨年 1 月に亡くなった詩人の吉野弘氏は、数多くの詩集を世に出しておられます。

吉野氏の作品に「祝婚歌」という、大変有名な詩があります。これから結婚しようという若いカップルには、是非目を通して欲しいと思っています。

吉野氏の詩には、優しげな表現の中にも鋭さが潜んでおり、時々ハッとさせられるのですが、今日はその事を、「漢字遊び」に掲載されている幾つかの詩を通して、紹介したいと思います。

私は、知人に便りを出す際、何のためらいもなしに「如何お過ごしですか」と書いてしまうのですが、吉野氏はそうした表現に対して「落ち着かない気分になる」と述べており、その理由を詩の中で次のように表現しています。

「過」

日々を過ごす
日々を過つ
二つは
一つことか
生きることは
そのまま過ちであるかも知れない日々

つまり、私達は日々一生懸命生きている訳だけれど、それは同時に、過ちを重ねて行く事からも逃れられないという事かも知れない、という自分への重い問い掛けです。

吉野氏は、「いかがお過ごしですか」と相手に問う事は、「あなたはどんな過ちをしていますか」と問い合わせでもするようだと言った詩の中で述べているのですが、それを読んで以降、私は、時候の挨拶で「いかがお過ごしでしょうか」とは書けなくなってしまいました。

「往」と「住」

この世を往かなくてはなりません
この世に住んだものはだれでも

この世を生きている者は皆、あの世へと向かって歩んでいます。その宿命からは、誰一人として逃れることは出来ません。にもかかわらず、「行く」という意味の「往」と「とど

まる」という意味の「住」とを結び付けたところに、面白さがあります。

ところで、私はこの詩を読んでいて、「往く」という言葉と「住む」という言葉では意味が正反対なのに、どちらにも「主」という字が使われているのは何故だろう



と、詩とは全く関係のない疑問を持ってしまいました。そこで調べて見ると、「往」の字源は「彳」＋「𠂔」という字で、「主」はその略した形とされています（新選漢和辞典から）。

また、「彳」は「歩く事」を意味し、「𠂔」は「草がむやみに生える事」を意味しており、これによって「往」は「むやみに行く事を表す」という事になります（新選漢和辞典から）。

一方、「住」の方は「人」＋「主」という字ですが、「主」は「灯火がじっと立っている形」を表しており、ここから「住」は、「人がじっと止まっている」という意味になり（新選漢和辞典から）、これで私の小さな疑問も氷解しました。

最後に、「省」という字について書かれた詩を紹介しましょう。

「省」
「省」は「少」と「目」の合体字
「少」の音の表す意味は「障」で
「障」は〈覆い隠す〉意味
従って「省」は〈目が覆い隠されて明視
できないこと
はて？ と私は首をかしげる
“何々省”というお役所は
物が見えない所だったのか

吉野氏の指摘は、詩人というより辛辣な政治評論家のようなのですが、なる程そうだと納得する人もいるでしょう。

いずれにせよ、そんなに視野の狭いお役所では、吉野氏のみならず誰も心もとない気持ちになるはずです。

そこで吉野氏は、これでは「省」の字も立つ瀬があるまいと他の辞書を調べたところ、

「省」は「之」と「目」の合体字

「少」は「之」の変形

「之」の意味は〈行く・出る〉、

従って「省」は〈行く目・出向く目〉、つまり、「見るべきものに充分、目を配る」という事だと知って「となれば、何も案ずることはない」と一安心しながら、返す刀で、「隅々まで目の届くお役所こそが“何々省”」と喝破しています。

お役所生活に安住して来た身としては、吉野氏の一言は、いささか耳に痛く響きます。（塾頭：吉田 洋一）